

## 議事録

- 会議名 第27回佐賀県総合教育会議
- 開催日時 令和6年1月9日(月曜日)10時~11時
- 開催場所 佐賀県庁 新館4階 プレゼンテーションルーム
- 出席者 山口知事、甲斐教育長、牟田委員、小林委員、加藤委員、  
飯盛(清)委員、飯盛(裕)委員  
(知事部局)平尾政策部長、泉総務部長  
(総合教育会議事務局)井崎政策総括監、他
- 議題 「佐賀県教育大綱 Vol.3(案)について」  
「子どもの社会体験について」 意見交換

### 1 開会

#### ○井崎政策企画監

皆さんおはようございます。定刻になりましたので、これより第27回佐賀県総合教育会議を始めさせていただきます。

本日、進行を務めさせていただきます政策部の井崎と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、山口知事から御挨拶を申し上げます。

### 2 あいさつ

#### ○山口知事

皆さんおはようございます。今年もお世話になります。よろしくお願いいたします。

佐賀県は教育県と言われて久しいわけですが、何で教育県なんだろうと常に考えることがあるわけですが、明治の初期に、今のこの日本の近代的な教育制度、いわゆる国民皆教育、そういったことも含めて、この国の教育の礎をつくったのは佐賀藩でありまして、我々が大きな方針、特にすべからくみんなの教育というものが国家の礎だからということで行ってきたわけであって、私が知事になって若干心配しているのは、そうやって先導的な役割を次の時代というのを見据えながら教育方針を作ってきたのに、逆に言えば今度は国のほうに引きずられて、言うがままになっているのではないのかと非常に危惧をしております。

時代は大きく変わっている中で、子どもたちをいかにたくましく育てていくのか、そして、

佐賀県として今本当に多くが人材不足でもありますし、量、質ともに充実したような子どもたちをいかにここから輩出していくのかということ、それを我々はしっかり自分の頭で考える、何か文科省の方針があるからとかいうことに引きずられるのではなくて、それがどうあるべきなのかということ、それを我々からの問題提起としてやっていく、そして、言うならば国に対しても意見を進言していくという考え方が大事なのではないかという問題点に立って、今回は佐賀県教育大綱、これから4年間の大きな方針になるわけですが、知事部局が本当に数少ない教育に対して申し上げられる機会ということで、今までの教育大綱は結構何というんでしょうか、(資料を示す)こんな感じだったんですけど、今回はこんな感じにしました。これは誰も読まないの。学校の先生は読んでいるのかなと僕はいつも思っていたんだけど、今回はこれなので、きっとポッケに入れてもらえるんじゃないかというふうに思っているわけでありまして、なので、そのぐらい我々として美辞麗句を並べるんじゃなくて、現場に伝わるように一応案をつくらせていただいたと思うので、分量が少ないので見ていただいて、教育委員の皆さん方にいろいろ御意見をいただいて確定させたいというふうに思います。

次の子ども社会体験についてですけれども、これも結局、子どもたちは学校の現場からそのまま社会に行くわけですね。大学を経由するかしないかにかかわらず、高校を経由するかしないかにかかわらず、社会に行くわけですけれども、その流れというものがあつて、もちろん、一生懸命学生時代は勉強して、例えば、バイトをしなくて行くというのもありだと思つますし、逆に言えば、いろんな社会のことを知りたいということであればバイトをしても全然いいし、そこから身につくものつて、高校までは本人がバイトしたいのにできなくて、許可が得られずに、いきなり高校を卒業して、工場に入つて、そういった意味で全く社会経験を積むことなく社会人になるというのは、僕はいかがなものかなとずっと思つたので、そういったところを、自分の現場だけを大事にするんじゃなくて、その後、ずっと社会人になつてもその資質がしっかり育つて、自分としての、人間としての体制ができるような、そういうような教育にならないかなと思つたので、そういう観点からして、これは様々御意見があると思つますので、我々からの問題提起についての御意見を賜りたいと、意見交換をしたいと思つておるわけでありまして、今日もよろしくお願ひします。

### 3 意見交換

#### テーマ1 佐賀県教育大綱 Vol.3(案)について

##### ○ 井崎政策企画監

それでは、会議に入りたいと思います。

正面のスライドにもありますけれども、まず教育大綱 Vol.3(案)についてということで進めさせていただきます。

お手元にリーフレットタイプ、先ほど知事からも御紹介ございましたが、今回、薄いタイプの教育大綱案にしております。

5月に開催させていただきました総合教育会議で、一度、案のほうをお示ししまして、皆様から御意見をいただいたところでございます。その意見を踏まえた大綱案がこのリーフレットタイプのものがございます。

今回の大綱案について、簡単に御説明をさせていただきますと、まず5月の教育会議でいただいた意見の大きなものとしては、子どもたちにどのように育ててもらいたいのか、こういったことを独自のメッセージとして届けたほうがいいんじゃないかというような御意見、それから、佐賀県らしい取組、こういったところを打ち出したほうがいいのかという御意見、それから、コロナという大きな環境の変化、こういったものを経た学校生活というものをどのようにしていくか、こういったものを記したほうがいいんじゃないかというような御意見をいただきました。

このような御意見を踏まえまして、子どもたちにどのように育ててもらいたいのかというメッセージ性の強いもの、こういったものを込めたもので、冒頭のページ、こちらのほうには知事のメッセージと、見開きの面にもそのメッセージを表したものにしております。

大きく3点ですけれども、子どもたちが自ら考え挑戦すること、そして、それを応援すること、人を思う優しさを持ってもらいたいということ、子どもたちの個性、こういったものを伸ばす、そして応援する、こういったことについて取りまとめております。こうした大きな方向性のもとで、見開きの下のほうですね、こういったところに取組方針として、佐賀県独自のもの、佐賀県らしさ、こういったものを前面に打ち出した取組方針としているところでございます。

そして、5月の会議のところでも御意見いただきましたように、コロナを経てどういった学校生活にするかということについては、マスクの取扱いはもちろんですけれども、マスクの生活の中で失われた子どもたちの交流とか豊かな表情、こういったところを取り戻すための取組としてどういったものがあるか、それから、大胆なデジタル化、こうい

たところを進めるというような視点も記載しているところでございます。

先ほど知事の挨拶の中でも申し上げましたけれども、これまでの教育大綱というのは、どちらかというと、いかにも行政の計画みたいな、20ページにもわたるような、文章が長ったらしい、あまり読んでいただけないようなものでしたけれども、今回は学校現場の先生たち、こういった方々にもしっかりと見ていただいて、日頃の行動につなげていただきたいということで、大きな方向性を示す分かりやすいものとして、リーフレットタイプというものになっているところでございます。

以上のような見直しを図っておりますので、今回の大綱案につきまして、その内容について、改めて御意見をいただきたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。

○山口知事

1点確認だけど、これって、両方で（知事部局と教育委員会で）つくるんじゃなくて、僕らがつくるんだよね。

○井崎政策企画監

そうです。

○山口知事

これを今までやってきたけれども、教育委員の皆さん方からいろいろ御意見を賜ってきたから、それを参考にしてつくったわけだけど、ということでもいいんだよね。

○井崎政策企画監

そうです。

○山口知事

だから、今日もう最終的にまた御意見をいただいて、我々がまたそれを踏まえてどうするかということね。

○井崎政策企画監

はい。

○山口知事

俺たちが勝手につくっても、教育委員会が受け取らないと意味がない、遠吠えになってしまうので、だからここで多少調整するというこで。

○甲斐教育長

定例教育委員会でも話しましたし、私たちも確認しております。

○飯盛(清)委員

一番のクリーンヒットは、コンパクトになったということです。さっき知事のお言葉にもありましたけれども、配られてもこっちに行くと。ひょっとして、今度こういう形になりましたといっても、へえ、そうだったの、前にこんなのがあったのみたいな、それが正直な実態ではないかなと、大部分の先生方だと思いますので、ぜひこれを有効に使っていきたいなと思いますし、初任者研修とか、校長研修会とか、そういった場の中でこれを使って、知事なり、教育長なりがお話をしていただいて、日々やっていることとか、4月から新年度になって、学校の教育計画とかを考えると、ここでやっているのはこれのどこに当たるんだというようなことを整理して、そういうふうにして使っていければいいのではないかなというふうな思いも持っております。

以上です。

○山口知事

実は、にじみ出ているのが、先生の仕事って学校現場がポイントなので、あんまり社会とか、いろんな放課後まで無理に負担を負わさないというか、そういうところにもじませではあって、あとはいろいろこれをもって議論をしてほしいなというところもあるし、甲斐さん、これは小中の教育委員会というのはこれを受け止めて何か考えたりするんですか。

○甲斐教育長

市町の教育委員会にはもちろん各学校でもお知らせいたします。

○飯盛(清)委員

佐賀市で、これに準じた佐賀市の教育計画というのがあったような気がします。それも同じ、さっき言ったように、量が多すぎて誰もみていない現状だと思います。

○甲斐教育長

首長さん方がそれぞれ市町の総合教育会議などで作っていらっしゃる状況ではございます。ただ、ここまで、どういう子どもに育てほしいというメッセージというのはなかなかないんじゃないかなと思います。

○山口知事

何か市町の議会とか見ていると、圧倒的に教育長の出番が多いわけ。教育がすごく議論の中心になっているけど、あまり県の方針とかは聞いたことがなくて、だから、多少は何というのかな、議論の材料にしてもらえようようになってくれたらいいなと。

○甲斐教育長

そういったこともあるし、教育委員会では、以前、落合前教育長のときに「ほめるからはじめる、はじまる。」ということで、子どもたちを肯定的に受け止めていきましょうという、それは一つ市町にもずっと繰り返し言ってきているので、またこの大綱を使って、子どもたちが自分で考えて、判断して、チャレンジして、失敗してもまたやっていけるようにみんなまで応援するんだよというところはやっていきたいなと思っています。

さっきおっしゃった学校の役割なんですけど、PTA連合会との話、協力しますよ、言いくいことは自分たちも前に出ますよというお話をいただいていますので、そういったところも一緒になって、学校が背負い込み過ぎないようにということはやっていきたいと思っています。

○山口知事

これは何度も修正しながらつくったけど、どうですか。何か気になるところがあったら今言っておいていただいたほうがいいけど。

○飯盛(清)委員

全く新しいものをつくり上げたわけじゃなくて、今までやってきたことを整理して、そして、現代的な課題を加味してやっているわけだから、そんなに大きな問題はないと私は思いますけれども、そんなに、これを新しく提示されて詳しく見たわけではないですけども、今はその時間かと思っています。

○山口知事

真ん中にコロナのマスクのときの話を入れているのは、やっぱりいろいろな現場で、社会人の現場を見ている対話ができない人が増えているなどというのはよく聞く話で、仕方ないところもあって、ずっとマスクで抑制していただいでしょう。それが結構きついよね。取り返してあげないと。

○井崎政策企画監

その人の顔全体が見えないから、どういった顔だったかも忘れてしまうと。

○山口知事

長かったからね。

○泉総務部長

口を動かすより、どこか手を動かすことばかりで。

○飯盛(清)委員

一番表の知事の言葉の中のトライアンドエラーというところを入れていただいているんですけども、やっぱり校則と一緒に、失敗させちゃいけない、学校の責任だ、教師、担任の責任だということに非常に強いのが現場だと思います。校則を緩めると、何か起きたら、ほら校則を緩めるからだとか、そここの何というんですかね、先生方、学校の問題というのをもちょうと違うよと。そこが非常にポイントになるんじゃないかなと、後の議題のアルバイトについても同じですが。

○山口知事

全くおっしゃるとおりでそこをちょっと楽にさせたほうがいいのかなって。無理だから、100%完璧にやるなんて。

○加藤委員

大人もそうですね。

○山口知事

そう。先生だって、100点なわけないわけで、僕らもそうだけど、それが人生なわけで、

そこをみんなでやっていかないと、やっぱり昭和の時代は、先生は100点満点だと思っていたから、俺。だんだんそれがそうでもないのかなと、だんだん大人になって気づくわけで、その辺りを、無理があるので、100点というのは。一緒に成長していくというか。だから、先生というのは先に生きていくという意味でしょう、たしか。そういう意味ではないのかな。

#### ○飯盛(清)委員

そういう意味でいくと、こっちはそういう思いでいても、世間の風潮が、何かあるとたたかれるというか、それが怖いとか。それで、本当にたたかれた人はメンタルを病んで、そういったのがある。その辺りを含めた対策というのは要るのかなという気がします。

#### ○山口知事

そうですね。だから、次のやつに行きますけど、相談していいんだよって。誰でも相談していいんだよって。弱者だけじゃなくて、強者が失敗したときでもいいんだし、2つ目に苦しいときに相談しやすい環境づくりはこれにとって大事で、そこをつくって、誰もが相談しやすい。

#### ○甲斐教育長

特別な人だけじゃなくて、特別な場所で相談というか、誰もがふらっと行けるようなところで自然にできるといいなと私は思います。

#### ○山口知事

だから、自立とか、自発とかすごくそういう学校のテーマにしているのが多いんだけど、自分で考えることは大事だけど、苦しんで相談するのは何の問題もないわけで、ずっと相談もせずにやれという趣旨では全くないので、そこを伝えたい。

特に苦しいときに先生に相談して、ちょっと言った一言というのはすごくぐっと来たりすることって確かにいっぱいあるので。

#### ○加藤委員

立ち話とかでもいいですもんね。



○山口知事

そう。

○加藤委員

特別な部屋じゃなくても。

○山口知事

じゃなくてもいいんだよってね。

○甲斐教育長

特別な部屋に入るとすごくハードルが高くて。ふだんのときに相談できるような環境っていいなど。

○泉総務部長

職員室はハードル高いですから。そういうイメージがあります。

○甲斐教育長

高いです。

○山口知事

最近は何かあれだね。学校見学していると、俺たちの頃に比べて保健室って行きやすくなったのかな。

○平尾政策部長

職員室のほうがハードルが高いんじゃないですか。

○飯盛(清)委員

保健室が愚痴を言いやすいというような、養護教諭がそういうスタンスで教育相談的なものを開いておられるところが多いかなと思います。

○平尾政策部長

養護教諭がそういう相談を受けられたりとかされているんですね。

○甲斐教育長

それからまたつないだりとか。窓口としてはすごく相談しやすい部分。

○山口知事

昔は小学校にベッドって、俺たちはマンモス校で、1つか2つかしかなくて、今は結構あって、人がいっぱい。

○甲斐教育長

様子を見ながら、そろそろ戻りなさいと。

○山口知事

そうなのね。

あとはあれだよ、ちょっと引き籠もっている人はまず保健室から入る子もいるしね、入り口としてね。そこまで学校に来れたと。

○井崎政策企画監

ほかは御意見ございますでしょうか。

○牟田委員

じゃ、一言だけ。

先ほど知事の最初に書いているやつで、トライアンドエラーも結構なんですけど、その後の個性を伸ばしていくということが大事なんじゃないかと思うんですよね。次のアルバイトの話にも絡むんですけど、相変わらず管理社会だから、学校というのは。そういうことをしていると管理から外れた子は弾かれていくので、逆に乱暴者とか、変な人がいいという意味じゃないですよ。その子の個性を、その人を認めてあげるといような教育であってほしいよね。

○荒木委員

私もすごい素晴らしいなと思って、昨日、ニュースで、ソニー生命保険というところが佐賀県が47都道府県の中で子育てしやすい県1位というようなニュースがあって、2位が福井だったかな、子育てし大県として子育てがすごく盛り上がっていて、じゃ、次、そこにつなげる教育というのがどういうものなのかというときに、自治体がこういう大きなメッ

ページを出しているって、行きたくなるな、育てたくなるなって、すごいほかの人も思うのかなと思いました。

次のページに、一番右の人材を育てるの一番下、自分で決めることの大切さ、さっき知事が学校の役割を少し盛り込んでいるというふうにおっしゃっていて、この丸が一番多いピンクをずっと読んでいたときに、一番下がポジティブメッセージかなと思うと、上のほうに持ってきてもいいのかなど。何か学校の役割が2番手ぐらいに来て、4番手にも来て、学校の役割をここで盛り込むというのも大切ですし、子どもが主役なので、決めることの大切さを自治体が発信しているよという意味で、1番手、2番手に持っていくのがいいのかなとか、ちょっと参考までに。

○山口知事

確かに真ん中のところで、奨学金が一番下でいいだろうと。それにしても一番右の一番下に結構大事なメッセージがあると。

○平尾部長

これを上に上げましょう。

○井崎政策企画監

加藤委員、何か御意見ありませんか。

○加藤委員

これは先生たち用ですか。学校全体でするのであれば、子どもたちにもこれを知ってほしいと思うんですよね。私たちはこういうことを目指してやっていくよって、一緒にやってほしいというメッセージが子どもたちに必要なんじゃないかなと思うんですけど、子どもたちからの意見も聞いてほしい。

○井崎政策企画監

これは先生たちだけじゃなくて、子どもたちもそうでしょうし、保護者も地域の方々も全て見ていただいてということで、今回こういった形にさせていただいています。

○加藤委員

子どもたちに対して、意見があったらメッセージを伝えてねという、こんな学校にしたい

んだよという子どもたちの意見も聞いてほしいなと思います。

○飯盛(清)委員

(冒頭メッセージのところに)顔写真は入れない?

○山口知事

名前を入れるのも何か俺はどうかなと思ったけど、県の職員からは、ちゃんとメッセージを伝えたほうがいいからって、今までもそれは入れていたからというから、名前もね。

○飯盛(裕)委員

知事がおっしゃられた、市町でどういうふうに伝えるか、教職員って結構異動で市町を越えていったりするじゃないですか。そしたら、A市では結構真剣にやったけど、B市に行くところとちょっとあんまり温度が高なくて、そういうのがないような感じで、市町に均等に言っていただくといいかなとちょっと話を聞いて。

あと、加藤さんが言われたように、生徒たちも読んで、先生ここ違う、こう書いてあると、そういうふうに言ってもらえるような、そういう環境もいいかなと思うんですね。それで個性を伸ばしていく、一人一人きちんと考えて行動できるような、そういう子どもたちが育つんじゃないかなと。

○山口知事

県の総合計画も、大きな方向性だけ示すような形に変えたんだよね。だから、それで大分、よその県はこれに載っているからやるとか、載っていないからやらないとすぐやりがちなんだけど、佐賀県の場合は、計画に載っているか、載っていないかはほとんど議会は議論しないしね。だったら、むしろこんな、これは4年間縛っちゃうから、1年後、2年後に何かあるか分からないから、だったら、もうちょっと大きな方針を。

○飯盛(裕)委員

これだったら、4月ですかね、知事が講話されるじゃないですか、新採の先生たちに。これがあっていいですね。分かりやすいし。今までのやつだと。

○山口知事

無理、入らないんだ。今度はちょっといけてるような、蛇腹とこんな細型のやつにならな

いかなど。

それで、起きたことに関して、ここはもっとこうしたほうがいいのかとやって、修正していけば大綱が生きてくるので。今まで見ていないでしょう、これ。すごい教本のような本。免許のときにもらう本、みんな見てるのかな。

○井崎政策企画監

講習のときだけしか見ない。

○飯盛(裕)委員

セットで来るやつですね。

○飯盛(清)委員

さっき荒木委員から出た、下に載っているのを上にというのは私も賛成なんですけど、自分で決めることの自分というのは誰を指すのかなと思って考えて、子どもだけじゃなくて、先生もそうだし、管理職もそうだし、市町の教育委員会もそうだしというような気持ちを改めて今思いました。

○山口知事

これは、先生から言うと、人が決めたというんじゃないよって、自分で決めるんだよという方針を、生徒もだけど、親が言ったから高校に行って失敗したじゃないかって、そうじゃなくて、自分で決めたというところに落とし込まないと、トライアンドエラーに合わないんですよね。保護者がここを受験しろと言ったから、受けてだめだったじゃないかって、おまえが決めたなさい、あんたが決めたなさいって。そしたら、やっぱり何が悪い、今度こうやって修正しようかなとかという意味なんですけれども。

○甲斐教育長

自分で決めたことって大切にできると思うので、責任を負えって言わなくても、自分で大切にすると。

○山口知事

人のせいにはしないということですね。

○甲斐教育長

学校もですけど、ぜひ御家庭でも、ここはこういう子どもを育てていく、多分小さい頃からの積み重ねで自分で決めるということができていくので、本当に小さいこと、お絵描きしようと思って、何の色を使うのと子どもが好きなように選んで。

○山口知事

そう。

○甲斐教育長

だから、服にしても、寒いから着なさいとかじゃなくて、寒かったら自分で外に出て寒かったと思って次から着ようと思うので、そういう子育てのほうからも少しそういうのは伝わるっていいなって。みんなでそういう子どもを育てていこうと、学校も、もちろん頑張ります。

○山口知事

自分で決めさせたら子どもは育つからさ。

○甲斐教育長

自分で、育ててきてほしいなど。実際これは、親が何でも決めるんじゃないって。

○山口知事

決めたがるからね、最近。

○牟田委員

そしたらさ、文の流れから言ったら、1の次に一番下のをつけないといけない。

○山口知事

そうそう。同じことを考えていました。おっしゃるとおりです。1とセットだ、最初の。

○平尾政策部長

親はいろいろ決めたがるのに、多分一番左側に書いてありますけど、高校生までに

様々な経験を積み重ねているということが、多分そこでいろんな自己判断、自己責任という部分が養ってくると思うので、そのいろんな経験の積み重ねがないと、やはり自己判断というところにも不安があったり、そういった意味では、いろんな経験を高校生までの間にしっかりやるというのは非常に大事な話ではないかなと思います。

#### ○山口知事

あれは何で管理型になっちゃったんだろうね、いつの間にか。佐賀県だけじゃないけど。やっぱりあれか。人がどんどん増えていって、昭和の時代、マンモス校で管理しきれなくなったからかな。確かに竹刀持っているやつとかも出てきたし。そういうことかな。それがずっとそのまま引き継いじゃって、どんどんそういうのって1回、元に戻ることをしないよね。特に教育現場ってどんどん積み重ね、どんどんプラスで負荷がかかっちゃって、時代に合わなくなっているところがどうしても残っている。

### 3 意見交換

#### テーマ2 子どもの社会体験について

#### ○井崎政策企画監

ひとまず次の議題に入らせていただきます。

子どもの社会体験についてということで始めさせていただきます。

資料をめくっていただきまして、資料の1スライド目になります。これまでの総合教育会議の中で、学校外の活動に関する御意見も様々いただいているところです。幾つかいただいた意見を記載させていただいております。

学校が規制し過ぎて高校までにいろんな経験をしていないんじゃないかというような御意見だったり、学校教育で守られていたところから、急に社会に出ることになるとかという御意見、それから、子どもの行動を制限することで自分で学ぶことをやめてしまっているとか、先ほど知事からもありましたように、先生とか家庭のせいにするとか、そういった子どもになっているんじゃないかみたいな御意見とかもいただいていたところです。

今回、こういったところで子どもたちが社会経験を積む機会、こういったものを逃しているんじゃないかという問題意識の下、今回は社会経験の一つとして、高校生のアルバイトについてフォーカスしまして、意見交換をお願いしたいというふうに思っております。

スライドの2のほうに移ります。

学校のほうで決めているルール、こういったものの中に、学校内のものか、学校外のものか、こういったものについて分けてみたものでございます。アルバイトとか、友人との旅行など、学校外の生徒の行動、こういったものに関しても学校でルールを決めているものもあるようでございます。

今回はアルバイトについてということで、昨年11月に県内の全高校についてアルバイトの取扱いを調べたものがございますので、そこについて御説明をさせていただきたいと思えます。

アルバイトを認める基準、こういったものについては、学校により濃淡があるようでございます。学業優先ということが前提にはあるものの、理由次第で認める学校が39校ございまして、生徒の希望を尊重する学校とか、また夏休みなどの長期休業中、それから3年生の進路決定、こういったものの後に認めるとする学校がある一方で、半数以上は家庭の経済的事情によりやむを得ない場合のみ認めるという回答があった学校もございまして、また、完全に禁止という学校も2校ありました。

アルバイトの事例といたしましては、特徴的なこととして、介護とか農業、工業、こういったところの実業系の高校では、関連するアルバイトについている子どもたちもいたりとか、あと地域特性ということで、地域と関係のあるもの、こういったところに積極的に認める学校もございました。

アルバイトを認めない理由としては、学校生活に専念すべきといった理由が多かったところでございます。

次をお願いします。

アルバイトの実施状況について、普通系と実業系の学校に分けて数字を挙げてみました。実業系の高校は卒業後を見据えて認める傾向にあります。一方で、普通系の学校は、多くが経済的事情によって認めているというところが多くございました。

次をお願いします。

アルバイトの実施状況の2つ目でございますけれども、アルバイトをしている高校を学年別に分けた資料でございます。この数字については、あくまでも学校側が把握しているということ。

(資料中の)5.8%という数字ですけど、学校に届出をしていないとかという子どもたちもいるということはあると思えます。

1年生のときは学校生活に慣れさせるということもあって禁止している学校が多いというような傾向にございます。学年が上がるにつれて高くなるというような傾向がありました。



こういったところが11月に私たちのほうで県内の全高校についてアルバイトの取扱いを調べさせていただいたところの主なところでございます。

私からの説明は以上でございます。

#### ○山口知事

補足しますと、私もいろいろ取材をしてみたんですが、結構アルバイトしています。学校に許可は出していません。出すとバツと言われるから。そういうのってどうなのかなど。俺はだからいいよと思うんだけど、推奨していいと思うんだけど、逆に言えば何で許可制度が残っているのかなど。やっぱりルールって守るべきルールはあってしかるべきだと思うけれども、最初から破られるようなルールって、結局、学校側のさっき言った、ちゃんとルールはつくったっていう自己防衛本能だとすれば、そこはもうちょっと全体として、経済的事情のみ認めるとか、そんなんじゃないかとさという問題意識です。

だから、我々はアルバイトは基本的には認めていいんじゃないのって思っているんです。どうしてもやっちゃいけない種類のアルバイトってあるけれども、一般的なものはという問題意識なので、ぜひ議論していただきたい。

#### ○飯盛(清)委員

校則の見直しについて、数年前から始まって、そのときには主に人権に関わる問題というようなことで進めてきて、そのときにここまで踏み込んでいけば、もっと進んでいたかなと思う。ただ、遅れてですけど、今からでもやるべき時代に来ているんじゃないかなという気がまず第1点目です。

今回、この議題が来るということでいろいろ私も調べさせてもらったんですが、冬休み前になると生徒指導室にいっぱい生徒の行列ができておって、何した、そがんいっぱい悪かことしたかと聞いてみたら、アルバイトの許可をもらいに来たということで、そういったのがありました。ただ、私も実際の数字と、ここに出てきている数字は随分差があるんだろうなと。学校もコロナで3年、4年の間、家庭の経済状況というのは複雑に悪いほうに行っているというところがあるので、ある程度緩く認めているというところは今ありますというような話はしていました。だから、いいタイミングではないかなというのは、ただ今回、広めていくというのは社会体験とか、そういったことに目を向けるということで、非常に価値ある提案ではないかなという気がします。

高校生の実態調査で、家庭の学習時間ゼロという生徒が非常にたくさんいると。それを考えると、家でごろごろゲームだけしているよりはよっぽど将来のためにも役に立つよ

うなことにつながるのではないかなという思いはしております。

以上です。

#### ○加藤委員

うちはちょっと第1種の高校ではありませんけれども、やっぱり家庭状況が厳しい子が全体の何割かな、結構多いんですね。うちでアルバイト許可という、許可願というのを出す、アルバイトに行く前のきちんとした手続を踏む、そこが大事になってきているということで、学校内では許可できる生徒たちというのが、出席状況が良好であるということと、学校での生活態度が良好であるという、幾つか簡単ですけども、そうやってどこでアルバイトしたいかというのを書いてくれます。それで親の許可ももらって、それで面接試験を学校で受けて、それから合格すれば、オーケーをもらってきたら、学校の証明書みたいなものを持っていきますよね。それでアルバイト先で面接して合格したら、また戻ってくるような手続をしているんですけども、その手続がすごく大事だなと私は思っています。行った先でものすごく褒められる子もいるんですね。でも、すぐ辞める子もおりますし、やっぱりそこは社会体験としてはとっても重要なことだなと私自身は思います。

ただ、学校での手続がきちんとしてできる子でないと難しい面はありますが、前向きに考えると、自分の能力や視野を広めるという意味では、アルバイトは社会経験を積む第一歩だなと思います。

#### ○山口知事

もともとアルバイト禁止とかやっていたのは、あれかな。昭和時代の学校の様子が原因かな。

最近さ、俺たちの頃のいわゆる不良って、何で出てこないの。昔って何かよく学校にたむろっているやつがいっぱいいたじゃん。やっぱりもともと昭和のルールが残っているんじゃないのかなって。逆にさっきおっしゃったように、家でゲームしているよりは、バイトして、何かやっているほうがよっぽど社会体験になるよね。

#### ○泉総務部長

社会性が身につきますよ。

○山口知事

と思うんだよね。だけど、昔はそういうところで金を持たせたら、おりゃおりゃとやるんじゃないかと思ったりして。

○飯盛(裕)委員

3ページ目にあるように、お金が手に入ると不良行為につながると、そこに違和感がある。100人中、1人いるかもしれないけど、そうかなと。昭和の発想で。こういう考えがあるから、やっぱりバイト禁止というふうになっちゃうんじゃないかな。

○甲斐教育長

禁止というか、学業優先というところはやっぱり高校としてはあるのかなと、そこは思っていて、高校生ってどうしても拘束時間、大学生みたいに自由になる時間というのはなくて、ある程度夕方の、家に帰って4時半とか5時とかになる。そこからアルバイトをするって、学業を優先してほしいという気持ちがベースに学校にはあるんだろうなというのを思っている。だからといって遠ざけてはいけないと思っはいる。社会経験もなんですけれども、例えば、働こうと思ったときに、こちらは学業に影響しないところで一、二時間働きたいとか、週に1日、2日働きたいと思っても、なかなか雇用側ってそこはそうはいかないですよ。働くんだったら、一人の人に長い時間、長い期間、日数働いてほしいと思うので、そのところがうまく生徒が思うようにできなくなるんじゃないかなという気持ちもある。だからそこは子どもたちに働き方というか、そういうことを教えてあげることもいいのかなと。そういう自分を守るすべというのを持たせてあげて送り出すというのが必要なのかなと。

○山口知事

学業を優先って、もちろん夕方まで、学校にいたときはそうだけど、それ以外も勉強しろってこと。家庭学習しなさいってこと。

○甲斐教育長

家庭学習というか…。

○山口知事

いいんじゃないか、自由で。その後、放課後は。

○甲斐教育長

そこはいいんですけど、夜遅くまで毎日働いていると次の日きつくだらうなって。子どもが自分でデザインできればいいんでしょうけど、そのところがしっかり判断できるように育っているという前提だったらいいんですけど、やっぱり御家庭もそこまで子どものことを思う、子どもの相談に乗る余裕がなかったりとか、いろいろ個々の生徒の置かれている状況が違うので、学校によって、その状況に応じて、段階を追ってやっていくのかなと思っています。長期休業中だったらいいよというところからまずスタートするとか、少しずつ、いきなり全廃するんじゃなくて、多分、今、経済的事情のみ認めるとなっているんですけど、経済的事情って結構広く認めていると思うんですよ。困窮だけじゃなくて。

○泉総務部長

所得証明を持ってきたりとか、そういうことはない。

○甲斐教育長

そういうことはしてなくて、やっぱり自分が、今後、進学するのに必要だとか、スマホ代は自分で払わないといけないとか、いろんな経済的事情、お小遣いをもらっていないからとか、いろいろな事情があるので、そこをそんなにぎちぎちにはしていないと思う。

○山口知事

その場合、許可証って家庭の経済的事情っていう。

○甲斐教育長

理由を書くだけで、幾らですとかって書かないので。

○山口知事

何となく家庭の経済的事情という言葉が違和感があるんだよね。あの子は家庭がきつからバイトしているって、社会的体験をしたいからしているのに、何でそんなことを言われるのって俺は思う。

○甲斐教育長

分かります。だから、生徒の自主的なところをもっと受け止める方向にというのは示し

ていくんだろうなど。

○山口知事

だから、勉強したい人は勉強すればいいってこと、全然。バイトしなくたって。それぞれがあっというと思うので、無理やり規制しないで、それぞれあと学校によってもルールが違うしね、いろいろあっというと思うし。

○牟田委員

僕も原則自由でいいと思うんですね。原則自由で、例外的に困ったときに親とか学校がアドバイスすればいいことであって。ちょっとずれていいですか。家業のお手伝いはアルバイトって言わないからずれるかもしれないですけど、私の娘の先輩は、家業の居酒屋を手伝い始めたんだよね、やっぱり人手が足りないから。最初の手伝いって、たまたま僕そのときに行って、あらっとかいう話をして、今日から手伝いますとか言ってたら、まだ彼女は高校2年生でおどおどして、何もできないような感じだったけど、行くたびに成長してって、高3の夏ぐらいから、牟田さん今日で辞めますと、受験だから勉強に専念しますと。そのときは本当に大人になっていて、例としておかしいけど、芋焼酎の種類を結構言えるようになったんです。社会性を身につけているなというのが正直なところなんだよね。家業だからアルバイトじゃないかもしれないけど、大人に接するとか、社会を見るということは、やっぱり高校時代には大事なんじゃないかと思って。しかも、ちゃんと高3になって、私、勉強に専念しますから辞めますと言って、するときはするんだなと。そういう意味で、社会性を身につけるという意味では、高校生のアルバイトは好きにしているんじゃないかというのは持論なんですけどね。

○山口知事

中学のときは分かるんだけどね、規制するのは。高校は自由意思だよ、高校に行くか行かないかは。義務教育じゃないよね。

○泉総務部長

居酒屋でいろんな世界の話を聞くとすごく勉強になる。

○加藤委員

学校では見えない力も、子どもはアルバイトに行ったりとかするとありますよ。えっ、そん

な力があつたんだというような力が。勉強じゃない力。

○飯盛(裕)委員

今日、この会議の前にちょっと皆さんで話をしている、今話しているのって、それこそコンビニとか、実際に行って働くアルバイトの話が前提じゃないですか。でももう今は時代が変わって、ユーチューブでお金を稼いだりとか当然いるわけでしょう。そういうところってどういうふうに規制していくんですか。その辺まだ規制はされていない。でも、同じことじゃないですか。学業に集中するというけど、やっぱりユーチューバーとしてお金稼ぎがすごく楽しいからそこに専念していく子もいるし。多分、時代ってどんどん変わっていついけるので、本当にそこに学校として規制をしないといけないのかどうかというのは、牟田さんも言われているように、自由でいいような気がするんですよ。

○牟田委員

そうやって見ないと、自分が大学に行って何を学びたいかとか分からないじゃないですか。

○山口知事

いろんな経験をしてね。

○牟田委員

芋焼酎の種類を知って、醸造メーカーに行って、と。例えば、自分は勉強は無理だし、社会がこんなに面白いならもう就職しちゃおうとかねと思うんですよ。

○山口知事

割と高校まで受け身の教育をさせておいて、結構そこから断絶がすごいのは、佐賀県の子もたちって。いきなり社会に出るので、ここのギャップ、今まで完全に管理されていたのに、いきなり今度は自分かよみたいな、そこをもうちょっと自分で考えられるようにいろんなことができたら、アルバイトするかしないかは選択になるわけで、自由化していけば。

○飯盛(清)委員

学校の側から考えると、保護者からも、どうしてこんな決まりがあるんですかと。例えば、

カラオケに行ってみたりとか、アルバイトに関しても。そういうふうなクレームが来る保護者、御家庭は大丈夫なんですよ、なくしても。しっかりした家庭教育がおありだから。ところが、そうじゃないところがどれくらい割合あるのか分かりませんが、やっぱり心配だと。だから、こういう決まりを決めていますと。逆にそういったところの家庭によると、学校で決めてもらわんと、うちは言うこと聞かんとですよみたいな声も届くからですね。その結果、今の数年前までの厳しい校則というのがあったんだと思います。

ちょっとまた視点の違った話ですけれども、仮に、突然そういったことは多分ないと思いますが、仮に自由とした場合に、生徒たちは深夜労働とか、時間給の高いところを選ぶと。そうすると、やっぱりきつくなって学校に来なくなったりする可能性は多いんじゃないかなというような声も最近聞きました。

#### ○山口知事

だから、あれでしょうね。もちろん、規制は必要なんでしょうね。例えば、何時以降はだめとか、それはあっていいと思うし、あくまで体験なので。ただ、一番難しいのは、さっきの学校の先生がどこまで担当するかということなんだけど、逆に言えば、そこまで見るということになると、先生はずっと子どもを見張ってなきゃいけないようになる。テレビドラマみたいに、放課後番長みたいに深夜も見て、「おまえ何やっているんだ、こら」みたいな、何とか先生みたいなさ。

#### ○飯盛(裕)委員

中学校のときとか、生徒指導の先生たちがお祭りとかもずっと回って。

#### ○山口知事

逆に、それを含めて楽にさせたほうがいいのかなって。だって、面倒見切れないでしょう、先生って。どうなの。

#### ○飯盛(裕)委員

ただでさえ忙しいのに、仕事がどんどん増えていく。やっぱり高校外のことだから。

#### ○甲斐教育長

学校管理外の私的な部分については規制を、それこそ本当に必要なものなのかどうなのかというのを校則を考えていかなきゃいけない。

○山口知事

学校の先生がその子の朝から晩まで24時間責任を負うというのはおかしいので。

ただ、学校は学校の先生としての守備範囲があって、もちろん、いろんな周辺環境も知った上で指導するのはいいけど、こっちまでって大変なんでしょう、今先生って。だから、そこも含めて見直したほうがいいんじゃないのって。だから、言われれば、親は学校に行ってくれないからこうんじゃないのって、そこは学校の守備範囲がある程度あるから、一緒にやりましょうねとうまくやってもらって。

○甲斐教育長

ただ、学校はその子の生徒の支援ということで、全然関係ないわけではないので、その支援というのは要るのかな。する必要はなくて、管理外、違う部分、私的な部分というのも保護者さんたちは本人の責任だから、そちらでというのはいいんですけども、学校の生活においてそこが影響してくるようであれば支援をしなければいけないというところはそうなるものだしということなんだろうなと思います。

○加藤委員

校則の中には入っているんですよ、アルバイトの件というのは。

○甲斐教育長

それこそ、学校での生活の態度とか、そういう基準というのはある程度設けざるを得ないのかな、設けていいのかなと思います。欠席しているとか、遅刻が多いとか、欠点の教科が多いとかとなると、やっぱりそこは学校としてはそれを度外視するわけにはいかなくなるのかなと思います。

○山口知事

不許可でやっていたからって、別に何か罰を受けるわけじゃないんだよね。実際、だから不許可でやっている人は多いんだよ。先生にばれないように別の地区でバイトしていますというのも結構聞くよ。

○飯盛(清)委員

発覚したら、生徒指導上、停学とか。



○山口知事

えっ、そうなの。そうなんだ。

○甲斐教育長

そういうのが前提で、だから、心配な部分はあるから知っておきたいというのが学校。

○泉総務部長

最近「バ畜」とかと言って、アルバイトのシフトが週7で入れられるとか、そういうのが一部のところであったりとかあります。

○山口知事

人手不足だから、確かにそこはそうだな。そういうところはあるな。

○甲斐教育長

そうなんです。安価な労働力として、いいように使われたくないんで、自分を守るための基本的な労働条件をちゃんと見ましようとか、テストのときはシフトを外してもらいましょうとかちゃんと言えるように、それを出せばバイト先に言えるように何か用意してあげないと、身を守るすべを持たせないと。

○山口知事

それはそうだな。そこはそうだな。

○平尾政策部長

そこは大事ですね。雇い側の一方的なね。

○牟田委員

でもね、それを学校がするというのはおかしいと思うんです。

親がしなきゃ。親に相談できない子どもが悪いとか、親子の関係が悪いとか。

○甲斐教育長

そうなんですけど、多分、親も知らないでしょうね。だから、ペラ紙でいいので、労基が

出しているペラ紙もあるので、そこにちょっと高校生らしいことを、勉強を優先してシフトをちゃんと。

○山口知事

そっか、その問題がな。だから、シフトにはめられる可能性がある。本当に人手不足で、だから。

○泉総務部長

ほかの人が辞めちゃうとおまえ頼むよって。

○甲斐教育長

次が見つかるまでやってくれとか、誰とかが休みなのでやってくれとかって、そうになると、真面目で責任と思うと辞められなくなるので、そういうところは若い子たちを守ってあげないといけないかなと。守るすべを持たせて。

○牟田委員

納得です。

一つ言うと、弁護士の実態として、最近、30歳ぐらいの大人が会社を辞めるときに辞表を親が出しているんです。

辞表ぐらい自分が出せよって。それで、会社から、弁護士にこんな聞かれた、あんな聞かんですかとか、あるいは離婚でも、結婚して社会生活をやっているのに、親が弁護士のところに相談に来る。だから、さっきからすべも教えてほしいけど、あんまり管理というか、がそうさせているんじゃないかという気がして。

教育長、そうかは分からないけど、学校がじゃなくて、困った子どもは、まず身近なところで友達とか親に相談して、私、こんなにシフトきついけど、どうしたらいいのかなというのを言うような社会にしていかなきゃいけないんじゃないかな。

○甲斐教育長

もちろん行政の窓口とかもあるので、自分で相談に行きなさいと知っておかないと、ここに相談に行けばいいというすべを学校に何でも相談しなさいじゃなくて、相談機関があるよと。これは労基に言っていいやつだよとかというのが分からないので、その材料を持たせてあげるという、あまりこうするんじゃなくて、材料を持たせてあげるというの

は。

○牟田委員

それはいいと思います。弁護士会の消費者相談というのはそうした事業です。分かりました。

○甲斐教育長

そういう授業があってもいいのかなと。アルバイトするときの注意事項。

○山口知事

だから、自分で考えるというのがすごく大事で、佐賀県がそういう教育方針で、自分のことは自分でちゃんと決めて相談してもいいからというほうにちゃんとシフトすればかなりよくなると思う。佐賀県の子どもたち。今はすぐ親ってなっちゃってるから。

○牟田委員

そうすると、さっきも言ってたけど、自己責任というか、何か決めたことは自分が決めたんだという発想にならないでしょね、管理されたとか。親が言ったからとか、社会がどうだからとかね。やっぱり自分が決めたことは自分が責任を負うというふうに育ててあげないと。

○山口知事

おっしゃるとおり、アドバイスはいいけど、親が子どもに。でも、決めたのは君だからねってちゃんと確認しなきゃいけない。

○加藤委員

決める過程って私は大事だと思うんですよね。高校生になったから、あなたが決めなさいと突然言われても、その過程がやっぱりないから、その前までには親がずっとやってあげて、もうあなたが決めてと言われたら、子どもはとてえっとなっちゃうんですよ。だから、流れをきちんと幼少期からつくように。

○山口知事

そうそう、小さいときからね。

○加藤委員

小さいときからつけて、そこを調整していかないと、いきなり言われると子どもって戸惑っちゃうから、そこら辺の私は流れを佐賀県でつくっていただきたいなど。

○山口知事

どうなの。山口家は小学校までと決めていたけど、親が介入するのは。せめて中学までだよ。高校になって、大学になって、社会人になっても親が「あんたどこに就職するの」ってさ、それはあんたが決めなさいでしょう。

○平尾政策部長

もう余計な口出しすると、こうされますよ。

○山口知事

それは立派だから。

○平尾政策部長

自分で決めるって言うから。

○加藤委員

中学校ぐらいまではやっぱり流れをつくっていく、自分で決められるような流れ、最終的に。さっきおっしゃっていたように、いきなり言われると決めきれないんですよ。もうあんたが成人なんだから、自分で決めてやりなさいと言われると、そこでポシャっちゃうから。

○山口知事

荒木さんのところは、いつから自分で自立するようになった。

○荒木委員

子どもですか、私ですか。

○山口知事

佐賀で行こうみたいな。子どもの頃からそうやって自分で決めてきたんですか。

○荒木委員

いや、結構、親が大きな…。

アドバイザーでいたけど、お医者さんになりたいというのは後押ししてくれたけど、佐賀に残ると決めたのは私で、大学を出たぐらいから自分の判断ということをもとに考えるようになりました。

○山口知事

そうなればいいけど、将来ね。そしたら、人のせいにはしないもんね、自分で決めてきたから。自負が出てきて。

○荒木委員

大学生を見たりとかすると、やっぱり自分の進路とか就職を選ぶときに、勉強しかしたことがないから、なかなか何を参考にしていいか分からない、そのときにバイトをしたりして、自分は接客がちょっと得意なんだとか、逆に苦手なんだとか、事務作業が得意なんだとか、そういうことが分かるというのはすごく強みだなと思うので、自分にどんなところが取り柄があるのかなということを分かる機会としてもバイトってすごい大切だなと思いました。

○山口知事

だって、あれでしょう。居酒屋の子だって、牟田さんと話しして広がるじゃないですか、世間が。

○牟田委員

今の子は18歳で成人でしょう。18歳で成人ということは、高校3年生の4月から成人の人がいるわけなのね。そしたら、高2、高1ぐらいから大人にしてあげないといけないんじゃないかと。国が18歳で大人ですよと認め出しているんだから、昔の20歳と違ってね。と思うんですけどね。もっと大人にしてあげなきゃいけない。

○加藤委員

そういうのをずっとしていかないといけないんじゃないですか。急にはしごを外されて、じゃ、あなた自分で選びなさいと急に言われると、その蓄積がないもんだからという子どもを私もたくさん見てきたので。ですので、少しずつ蓄積が大事だねと思います。

○飯盛(裕)委員

やっぱりやりたいことをどんどん体験させるより、そういう社会に、それぞれ別の会議で牟田さんが言われていた、やっぱりやっている中で、失敗して痛い思いを見るのも一つの勉強、そういう機会を与えることそのものが大切なんじゃないか。

○山口知事

そうするとあれだね、子どもの頃から子育てし大県じゃないけど、やっぱりいろんな体験をさせておくというのは実はすごい価値のあることだよ。3歳、4歳、5歳で。

○飯盛(裕)委員

うちの園児たちだって、失敗したら二度と失敗しないようにという軌道修正するわけじゃないですか。そういうことで学んでいく、そういう機会を、だめだよということ。

○山口知事

近づけないんじゃないか。

○飯盛(裕)委員

学ばなくなるというか。

○甲斐教育長

そうやってやってきたことが自信につながる。自分が選んだことに間違いはないという自信に積み上がっていくので。

○飯盛(裕)委員

自主性を大切にするというのはやっぱりそこかなと思いますね。

○甲斐教育長

いきなり選べと言われても困るので。

○加藤委員

やっぱりプラスに見ていくと、アルバイトをしたいという方向に向いている子というのは、

それなりに蓄積を自分の中でしているから外に目が向くんですよね。だから、それはいい方向と見て、プラスにその子が働くような下支えを学校のほうでしていただけるといいのかなと思っています。

## 閉会

### ○井崎政策企画監

そしたらお時間になりましたので、そろそろ。

### ○井崎政策企画監

社会体験関係については、ほかの議題もありますので、今後、また総合教育会議で…。

### ○山口知事

(資料を見ながら)これはだから今、左側はもうルールを決めちゃっているということだよな。

### ○井崎政策企画監

そうです。

### ○山口知事

だから、右側はよく分かるんだよね。通学方法とか、こういったところは学校の管理にした方がいいと思うけど、左をどうするかってあれだね、これからもよくウオッチしてさ、特にカラオケに親と一緒に連れていく校則はあれはやめてほしいよな、早く。親に任せてほしいよね。

### ○甲斐教育長

小中学校はほぼ外れてきています。ただ、残っているところは残っている。ある市で出しているのがあって、えっ、よそが変わっているの知らなかったとかって、みんなと同じ右ならえみたいなのがあるので、少しそこは言っています。市町の教育長さん方とも話をしているのです。

○山口知事

さすがにないよねというやつはあるからさ、そこを外さないと、結局、小学校の校則でだめって言っているやつで、廊下を走るのもだめなんだろうね。それと、やっぱり変な薬に手を出すなという、あまりにも違うよね。それを整理しないと、何もかもだめで、実は学校的なことをやっているとかいうのはよくないので、本当にだめなやつだけをだめとしないと。

○飯盛(裕)委員

本当にだめなやつって法律でだめと決まっている。ですけど、おうちの人と一緒にでも行ってはいけない場所、パチンコ店は行っちゃいけないと法律で決まっているから。ただ、そこに佐賀市生徒指導協議会とかで、ビリヤード、ゲームセンター、ゲームコーナー、カラオケボックス、親がいいって言ったらいけないですか。

○山口知事

親がいてもだめなんだよ。おかしいだろう。

○飯盛(裕)委員

おかしいですよ。

○山口知事

そんなのは親の勝手だろう別に、カラオケに連れていくのはさ。なのに、そこを規制しているというのはやっぱりあまりにもひど過ぎるので。学校から出るならね。

○飯盛(裕)委員

今度、バスも無料じゃないですか。

○山口知事

だから言ってるじゃん、子ども同士でゆめぎんがに行けばいいじゃない。だって、都市部の子とかみんな塾に行ってるだろう、学校の外に。

○飯盛(裕)委員

遠いところは電車に乗って行ってますね。



○山口知事

だから、そこも全部管理しようとするから、最後まで多少リスクはゼロじゃないけど、ゼロにしようとして、無菌状態にしようすると、大体分かるよな。

○山口知事

規制するとだめなんだよね、俺たちだって。別にちゃんと規制してましたって、県だっ  
て一緒だから、学校と。だから、それをやっていると、本当にいい子どもが育つと思えな  
いよ。

○井崎政策企画監

子どもたちの自主性といいますか、自分で考えて行動するという子どもたちを育むた  
めに、こういったところについては今後も総合教育会議の中で議題として取り上げたい  
と思っておりますので、よろしくお願いします。

それから、前半で議論していただきました教育大綱、こちらについては、今日御意見い  
ただけなかったところについては、後日でも構いませんので、私どものほうに御意見を  
寄せていただきましたら、それを踏まえましてまた反映させた上で、こちらで策定をさせ  
ていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そしたら、今回はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。